



復刊第86号  
題字吉岡弥生

### 春とともに

副会長 柳瀬路子



例年にならない手痛い雪害を齎らした冬もようやく去り、春一番とともに、今春は梅・桃・桜が一期に咲き出て、そうな陽気でございます。全国の皆様もご機嫌よく、新たな気概を持って、それぞれのお仕事にご活躍のこととおよろこび申し上げます。

今回は春にふさわしいお知らせが出来る巡りあわせになりました。幸いでございます。それは、会誌新年号で三神会長も触れておられました。昨秋より検討されておりました事務所移転の候補物件が本極りとなったことでございます。

新事務所につきましては、長期にわたって、日本女医学会事務所移転準備

委員会、種々の物件を検討してまいりましたが、機も熟しまして、昨年十一月十三日、委員会より答申案が理事会に提出され、理事会ではこの答申書を十一月・十二月の理事会で慎重討議。かつ、弁護士の手で業者の信用調査を行い、本物件を適当な物件と認めて購入を決定しまして、本年一月二十四日、理事会の席上、弁護士立合いの下に、日本女医学会長三神美和と三和建物株式会社代表取締役宮下勝三郎との間で、事務所買入契約の調印をいたしました。経理面の検討につきましては別稿にて福永副会長が申し上げます。五月上棟。九月竣工の予定となっております。我々の愛して止まぬ日本女医学会も今秋には、待望の独立した新しい事務所を持つことが出来るようになりまして、この基金といえは全

会東京大会に芽生えがございませぬ。まことに同慶にたえませぬ。新事務所は渋谷区渋谷二一八一―一〇七坪強の中型ビルで、その三階三〇一号室(十五坪強)、三〇二号室(九、五坪強)を買入れました。この建物は国鉄渋谷駅より徒歩十分。宮益坂と金王坂の合流点に建つ、仁丹ビルの、一区画青山寄りにある第百生命ビルの真裏に建ちます。大きな部屋は理事会もひらける広さで、会員諸姉の会合にもご利用願いたいと思っております。第百生命の前にはバス停、(渋谷二丁目)があります。仁丹ビルの前を明治通りの方へ下ると渋谷駅界隈から道玄坂方面はうまいもの店。宇田川町方面・神南はヤングとNHKの街であり、松濤には親世能楽堂もあります。また第百生命の前、青山通りを行くと、右手の一角は青山学院であり、表参道を左へ曲れば原宿・外苑。さらに仁丹ビルを一寸首都高速の方へ戻ると玉川通りを行くと、テレビ朝日から六本木・赤坂へ出ます。新しい住居も仲々楽しそうところ。思えば臨時総会で事務所移転の事業がきまり、三神委員長のもと、会員より明石・稲生・木原・白浜・野村・福田の諸姉。理事より尾中・鈴木・福永・守安・八木・今野・柳瀬が委員となり、足掛け五年。意見も二転三転。長期に涉つてこの問題と取り組んできました。諸先生方。長い間ありがとうございました。沢山

### 目次

春とともに.....	柳瀬 路子	1
女医学会事務所移転について.....	福永ひろ子	2
総会案内.....		3
吉岡弥生賞候補者推せんについて.....		3
Circular Letter No.63.....	山崎 倫子	4
中国の印象.....	野沢 良美	4
支部展望 関東地方.....		4
群馬だより.....	岸 直枝	6
茨城だより.....	大貫 京子	6
神奈川だより.....	稲生 襄	7
千葉だより.....	久田 タカ	7
山梨だより.....	清水 友代	8
昭和五十四年学位取得者数.....		8
忙中閑.....		8
湯坂路と石仏群.....	福永ひろ子	9
吉岡弥生賞規定改正.....		10
理事会議事録(十二月・一月・二月).....		10
会員動静.....		12
編集後記.....		12

の資料をお集め下さったこと。法的なアドバイスを下されたこと。骨折のご不自由な足をお運び下さったこと。有難い思い出ばかりです。おかげさまで我々理事会も公約を果たすことが出来まして、安堵の思いをいたしておきます。

振りかえって考えますと、いくら資金がなかったとはいえ、よくもまあ、こども長い間至誠会の暖かいご芳情に甘えて、居候をきめこんでできたものよと思えます。私が初めて理事

事会に出ました時は、土間の玄関の贅の子の上でスリッパを穿きかえ、大正時代の女子寮のような至誠会館の木造の一室にうかがったものでした。その至誠会館が改築されて保育園となった現在もお、その四階に事務所をお借りして、暖房費その他便宜を計っていただいております。長年に渉り並々ならぬご庇護をいただきましてありがとうございます。衷心より御厚誼に感謝申し上げます。十一月には新事務所のご披露を兼



仮称：宮野ビル—完成予想図—

### 女医学会事務所移転について

副会長 福永ひろ子

ねて、日本女医学会創設六十五周年記念の祝賀会が、渋谷東急文化会館ホールで催されることになりました。皆さまにお楽しみいただきたいと各部合同で理事がプランを練っております。今秋にはぜひ一度渋谷にお立ち寄り下さいまして新装成ります女医学会本部をご覧下さいませ。また、東京支部の皆様には、会館ホールを各種のお集りにお使い下さいまして、親睦・福祉・研修などの支部活動にご利用下さいますようお願い申し上げます。(56・3・25)

長い間の懸案であった日本女医学会本部事務所の移転が実現する運びとなりました。

昭和五十二年二月二十七日の臨時総会において、第十五回国際女医学会記念事業の一つとして、日本女医学会本部事務所を交通至便な場所に移転

する事を出席者多数の賛成を得て決定し、会員・理事・監事の中から十四名の委員を選び、事務所移転準備委員会が発足致しました。

以来十数件に及ぶ物件について、会を開きまた現地視察をしましたが、いずれも限られた予算内で我々の要求をみたす事務所を見つけるのは至難の事で、一時は貸事務所でもと考えた事もありますが、これとても委員会の考えている二十五坪前後の事務所の家賃は保証金は別としても四十万円以上もかかり、その上二年毎の更新では早晩女医学会の運営にも支障を来す事は明白であります。

日がどんどん過ぎて行く中に、公共料金の再々の値上げにつれて、諸物価の高騰は天井知らず、大事な資産の目べりは目に見えて、暗然とした気持でいたところ、昨年八月、渋谷の宮益坂に売事務所が新築される事を聞き、早速この物件について業者を呼び種々討議しました。

場所・東京都渋谷区渋谷二丁目八番七号  
名称・仮称宮野ビル  
仕様・鉄筋コンクリート五階建  
(一、二階店舗・三、四階売事

事務所・五階住宅)

分譲価格・坪・一八五万円  
建築主・三和建物株式会社  
着工・昭和五十六年一月二十六日  
完成・昭和五十六年九月二十六日  
定(五十五年十一月一日建築許可済み)

この中の三階三〇一号(会議室一五・一五坪)と三十二号(事務室九・五四坪)の二室を購入希望としました。

#### 価額について

301号室	¥28,030,000
302号室	¥17,650,000
合計	¥45,680,000
(支払条件、契約時20% 上棟時20% 引き渡し時残金)	

#### 所有権移転時費用

不動産取得税	¥822,240
内装費	¥1,000,000
備品費	¥2,500,000

#### 管理費その他負担分

管理費 (月額)	¥48,886
固定資産税(〃)	¥31,976
都市計画税(〃)	¥4,568
電気ガス水道代	¥40,000
(各個メーターにより算出、公共料金の値上りを見込して試算した月額)	
合計1カ月当り経費概算	¥125,430



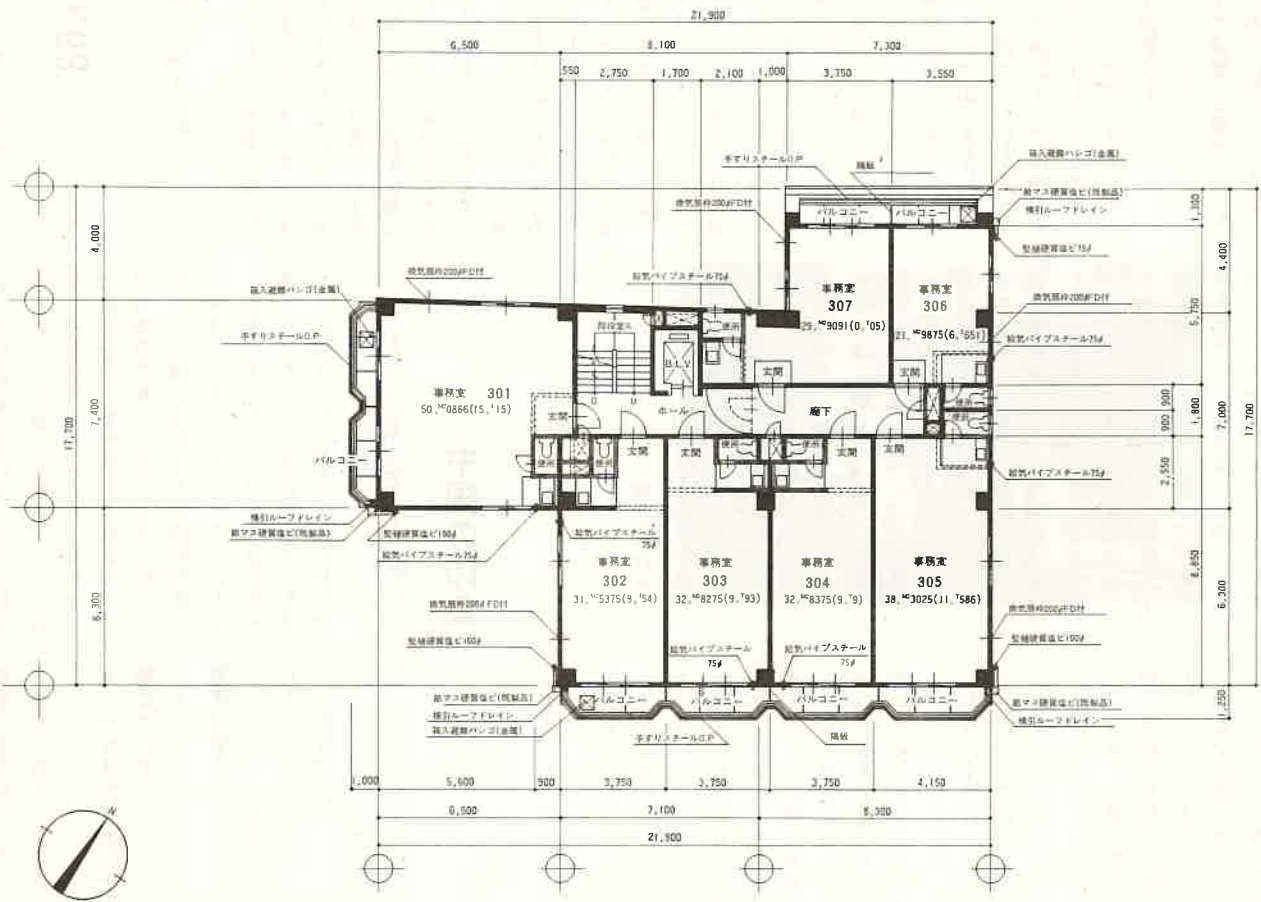
立地条件環境等に関しては柳瀬副会長の巻頭言の報告の通りでありますので省略致しますが、これらをもたえて、各委員は現地まで、徒歩でまたはタクシーで渋谷駅からの所要時間を計ったり、知り合いの建築業者や設計士の意見を持ちより会を重ね、慎重の上に慎重という事で、弁護士に業者及び物件の調査を依頼し、その調査報告をそえて、十一月十三日付で、委員会として、本物件が日本女医学会本部事務所として適当な物件であると認め、答申書を作成し、理事会に提出しました。

十一月二十二日理事会は答申書を受理し慎重審議し、全理事に対してアンケートを求めましたところ、賛

成二十七、反対一、回答無し四で理事会は賛成となりましたがさらに詳細について、三和建物の方の説明を求め、十二月二十七日臨時理事會を開きました。

女医会側と種々の問題を充分話し合い（内装、トイレ、天災、火災、その他の入居者について等々）改めて出席者に挙手にて賛否を問ひ、反対一、その他全員賛成を確認いたしました。

昭和五十六年一月二十四日午後三時東京王プラザホテル桂の間においての理事会の席上で、三和建物株式会社と弁護士米林和吉氏立会の元で契約する事になりました。契約に先立ち米林弁護士から室内を女医会が使用しやすい様に建物の基本的構造を毀損しない範囲内で変更する事もあり得るとの項目を加えた方がよいとの意見ありこの一項目を記載して「土地付区分建物売買契約書」に三和建物株式会社（代表取締役宮下勝三郎）と社団法人日本女医会（会長三神美和）の両者間においてそれぞれ記名捺印し契約を締結いたしました。思えば長い道程でした。臨時總會から丸四年にしてやっと公約を果すことが出来ましてホッと一息ついておりますが、新築なつて移転完了までにはまだまだなすべき事が山積しておりますので、引きつづき皆様のご協力をお願いして、中間報告と致します。



3階 平面図

総会へどうぞ

来る五月三十一日（三十日午後は観光）愛知県におきまして第二十六回総会が開催されます。

先生方のご出席を愛知県支部会員一同心からご歓迎申し上げます。総会当日には熱田神宮神楽殿にて雅楽を奉奏、懇親会では郷土芸能（文化財「棒の手」）を企画いたします。先生方には一応お申し込みをいたしましたが、なお余裕がございますので今からでも結構でございます。ご連絡くださいませ。

愛知県支部長 森川みどり  
連絡先 千四五六 名古屋熱田区二番町四の三九  
佐藤千代子 佐藤千代子

電話 〇五二一六五三〇三一〇

吉岡弥生賞候補者

推せんについて

昭和57年吉岡弥生賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。締め切り期日は本年末日迄に願います。

なお次の書類を添えご推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書（写真添付）
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員
- ロ 社会に貢献した現会員
- 三、推せん理由

# Circular Letter No.63

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

お元気で忙しい日々をお過ごしのことと思います。来る六月二十四、五、六の三日間ウィーンで国際役員会が開かれるにつき、いろいろの点でのご意見やら情報を送ってくださいようお願いいたします。

## (一) 第十八回 MWIA会議

一九八二年十一月二十二日から十七日までマニラで開かれる第十八回MWIA会議の準備はほぼ完了の段階にあるとのことです。フィリピンの国際会議組織委員長、Dr.サントス、Dr.テイゾン総務委員長、Dr.ロペス学術委員長の三人が国際役員会に出席し報告することになっていますので、その後第一報が送られるでしょう。テーマは前号に記した通り——

“Humane Management in Medicine”  
——心ある医療——です。沢山の論文を送ってほしいと思います。(国際連絡書記経由、抄録をそえて)

## (二) 一九八二年—八四年の役員選挙について

六月の役員会に次期役員候補の指名を提出しなければならぬので、事務局宛候補者を推薦して貰いたい。名譽書記以外の全てについて推薦の

お願いをする。私が立候補しないことはご承知と思うが、未だ新しい事務局の設置が決定されないで、書記を現段階で選ぶことは難しいと思う。事務局を置く国から書記を選ぶという規約はないが、私はその方がよいと考えるし、皆さんも同意見だろうと思う。したがって、この人事は役員会で事務局をどこに置かを決定するのを待ちたい。

Dr.ホルムストロームはマニラ会議をもって引退するので空席となる。また副会長八人のうち、中央アジア地域のDr.カチャトアと西太平洋地域のDr.佐野の二人はもう一期二年はつとめることができるが、他の六人については改選されなければならないので候補者を指名して貰いたい。推薦に先立ち、当人の承諾書が必要であることを再度注意して置く。

もし特定の人を選出できない場合は、どの国から選出したいかの記入をされたい。地域によっては順番制で役員を引受ける申し合せができているところもあるので、その点副会長と相談の上推薦されたい。

## (三) ポリシーの決定(会務執行方針)

MWIAの執行に関しての意見は

必ず役員会にまにあうように提出されたい。定款、規約等については見、修正案等あれば六月十五日までに届くよう、また申し入れについては役員会で検討の上、必要に応じてマニラ会議に上提または事前協議の出来るよう取りはからうことになる。前号に記した、ドイツ女医学会の提案——すなわち工業国の会員の会費を十%値上げし、発展途上国会員の会

## 中国の印象

この度、中華全国婦女連合会のご招待により、日中友好婦人代表団の日本女医会代表の一人として、中国訪問の旅に参加させていただきました。この使命を果すほかに、私事に涉りますが、父が昔、北京に在任しておりましたこともあり、亡き父を偲ぶよすがとして殊に北京に心惹かれるものを感じておりました。それから戦前の「支那遊記」の類に触れてみますと、破屋の恨みともいいうべき影暗い感じ、破国の佛というわびしい印象をほとんどの人達が受けたように思われますが、それから三十年の月日を闊した今日、新生の中国はどのような風貌を帯びているのか、国民打って一丸となって新しい国家と社会の建設に宮々と努力し来っ

費を六十%割引くことについて——の貴会の態度を至急返答されたい。

## (四) 一九八六年第二十回MWIA会議について

また随分先のことではあるが、開催の招待をお受けしたいと共に、テーマについて提案も六月役員会までにお申し出いただきたい。名譽書記 Dr.マーサー P・リーより

都下支部 野沢 良美

た成果はどのようなものであるか、この目で直に見たいという楽しみがありましたし、もう一つ現代の中共政権下の民衆の生活の実態を具さに見ると同時に、夏殷周秦漢晋隋唐宋元明清・五千年の燦然たる文化を誇る中国の歴史の流れの中に、現在の中国の姿を映して見てみたいという願いも心に秘めておりました。

私達訪中団は、去る三月五日成田空港において結団式を挙げ、六日朝、北京に向けて飛び、十五日上海を発つて帰京いたしました。一行十六名は、医療、教育、福祉、民生、学術、婦人運動、建築、染職等の各分野にわたっておりまして。



明の皇帝の13陵の巨大な動物の石像前にて

終始しており、三月七日の招宴においての中華全国婦女連合会、黄甘英副主席の温い熱意のこもった歓迎の辞に始まり、私達訪中団員は、それぞれ各分野に分れ、中国の代表者の方々と対話を交しました。私達医療団三名(山崎倫子団長及び日本女医会代表二名の小俣喜久子先生と私)は、中国医療代表の中医医院の副院長、内科主任、研究所教授の三人の先生方よりお話をうかがいました。北京には中医学院を含む四つの医科大学があり、そのシステムは六年の教育、一年の研修を経て、国家試験はなく直ちに医師として認められる由、中医病院の医師の数は男女同数併せて二六〇名、看護婦三〇〇名、

入院病床約五〇〇床、外来患者数一日二、三〇〇〜二、四〇〇名の多数に及び、医療は西洋医学の他鍼灸、漢方薬を併せ施行し、かつ、医療網が整然と定められ、村、公社、県、市の病院へと順を追って診療が進められ、その順序を飛び越えることは許されないとのことでした。医師は尊敬されてはいるのですが経済状態については非常に低給で、卒後すぐの初心者には五六元(およそ八千円弱、一元は一三八円位)で、すぐには結婚はできない実情であり、副院長にしても一四五元(約二万円)とのこと、一カ月の生活費は一人あたり五〇〜六〇元は必要とのことでした。

そのほか教育関係では、女性の校長先生の占める割合は高く、小学校では八五%、中学校で七〇%以上であり、一九七七年以来、教師の統一テストというものが四〇人に一人という合格率で成績の良い者が、いい学校に抜擢されるとのこと。小学五年、中学(初級中学、上級中学)五年の修年年限が最近各々六年に延長された模様。エリート教育が盛んに行われ「少年宮」において各分野の徹底した英才教育が施されております。男子教師停年六十才、女子教師五十五才、これは差別ではなく、女性を労わる意味からの制度の由。産休は五十六日間、学校教育のスローガンは、知育、徳育、体育、美育、の四本の柱を掲げています。

なお女性四七〇万人中、管理職に就いているのは約二十六%で、北京

市長も女性、大臣、副大臣、副総理次官等にも女性の進出が著しく、また青少年の非行の問題もありませんが、これは四人組の悪影響と一括して説明されています。五講四美(礼儀、衛生、道徳、秩序、文明の五講と行為、心術、言語、環境の四美)が社会的スローガンであり、市長は選挙されて決められますが市の役員の仕事は市長個人の権限によることとあります。

三月八日の三八婦人デーには九〇カ国の婦人代表が集り、これは女性の待遇と地位向上を主旨とする全世界勤労婦人共通の祝日で一九〇八年アメリカ婦人によって三月八日にデモが行われたのに始まり、我が国では一九二一年(大正十年)山川菊栄女史等によって実行されましたが一九五一年ストップされた社会運動であります。今回は「豊かな物質財産」「社会主義建設の精神文明の高揚」「子供を健やかに育て教育すること」等の遠大な理想が謳われました。三月八日夜、人民大会堂において中華全国婦女連合会康克清主席外十名による私達代表団十六名のための華麗な招宴が開かれました。

北京四泊(六・七・八・九日)蘇州三泊(十・十一・十二日)上海二泊(十三・十四日)の旅を重ねましたが、殊に南中国の人口四三〇万の大都市上海は北京とは全く異って開放的であり夜はネオンサインが輝き我国に近い印象をうけました。北京は万事合理的で堅く、整然として

落ちつきはらっており、開放された中国とはいへ、古来の北支と南支の顕著な相違をそのまま、まざまざとみせております。しかし、いずれも希望に燃えた真剣さと目のかがやきが、新しい世界の到来を明らかに示しており、あの眠れる獅子の中国が、生氣潑刺たる青年に蘇った奇蹟を目のあたりにした思いがいたしました。

建築美術の点においては全中国を通じて、その荘大さと強烈さに驚かされました。古来中国美術の特質は「威壓」の一言を以て表わし得ると思いますが堂々と人に迫り来る迫力は「細やかさ」を本質とする我国のそれとは全く異質のものであることを感じました。



華東師範大学図書館前

三  
スペインの哲学者オルテガ・イ・カセットの「大衆の蜂起」(一九三〇年)は、近代ヨーロッパ文明診断の名著とされておりますが、また巨視的にみれば、現代中国の汎人類的ともいべき一大実験の一つの子言の書とも見うるべきものと思えます。

中国は今、渾身の力をこめて「文明の大衆化」に、あるいは「大衆の文明建設」という人類の新しい試みに邁進しております。旧来、中国の文化を維持し、かつ発展させ来たったものは読書階級(士大夫階級)であったと思いますが、現代の中国は大衆という広い底辺から英才を選抜し、国家が責任を以て積極的に教育し、この人々の大成を期しております。

このエリート達が今後の中国文化の担い手となって新しい発展の成果を見せてくれるのではないでしょうか。それは明らかに中国本来の血と伝統に即しつつ、而も全く異質な新文化に違いありません。そして私は文明の大衆化は実に大切な立派な事業ではあるけれども、「文化の大衆化」ということは本来、果して可能な性格のものであろうか、という素朴な疑問に、まだ一つ見極めのつかない心境でおります。

「婦人情報センターだより」  
日本看護協会より「協会ニュース」  
日本病院ボランティア協会より「病院ボランティアだより」  
全国官報販売協同組合より「月刊政府刊行物」  
日本文化協会より「光のプレゼントニュース」  
インドシナ難民を助ける会より「第四号」  
至誠会より「女医界」「会員名簿」  
「東京都支部だより」  
日本労働協会より「ジュネーブ日記」  
日本メルク萬有より「CREATA」  
婦人国際平和自由連盟より「婦人と平和」  
総理府婦人問題担当室より「えがりて」  
日本弁護士連合会より「労働基準法研究会報告書に対する意見書」  
「男女雇用平等法要綱試案」  
東京都労働経済局労政部より「働く女性のみちしるべ」  
金融財政事情研究会より「新しい相統制度の解説」  
国立婦人教育会館より「会館だより」  
日本汎太平洋東南アジア婦人協会より「パシイワ」  
高知県女医学会より「旅路―宮地国栄先生を偲びて―」  
マッキンストリ千枝子先生より「若さを保つ美容法」  
東京女子医大より「東京女子医科大學八十年史」  
鶴風会より「東邦大学医学部卒業生名簿」

寄贈図書及びパンフレット案内  
全国婦人新聞・月刊前進座・I・L・O  
ニュース・婦人展望・浴風会  
日中医学協会より「日中医学ニュース」  
東京都都民生活局婦人青少年部より

支部展望 関東地方

群馬だより

群馬支部 岸 直枝

小・中学生の非行、家庭内あるいは学校内暴力、青少年の逸脱した行動、若年者の妊娠等が大きな社会問題として取りあげられています。

「今時の若いものは…」と眉をひそめ「困ったことね」と嘆息しているだけでいいのでしょうか。そしてこれらの問題に驚き、子どもたちをハラハラしながら見守っている母親に、子育ての先輩としてあるいは医師としての専門的な立場から何かお手伝いする事は出来ないだろうか、こんな話が会員の間でささやかれ始めたのは一昨年、日本女医学会総会の会場をお引き受けした準備会でのことでした。

速断即決、そして直ちに行動をはじめるのが上州の女(こんなところがからっ風と並び称せられるのでしようが)、その年の九月、警視庁少年相談室で卓越した識見と豊富な経験をお持ちの江幡玲子先生にお出で願って「思春期とおとな」というテーマで講演していただきました。女医会員の他に学校関係者、保健婦、母親等多くの人達が参加し、とてもいい勉強をしました。つづいて第二回は国立公衆衛生院家族計画室長の荻野博先生から「初潮指導」につ

いての講演をうかがいました。研修終了後の懇親会では種々の意見が交されました。とくにこれらの問題には女性である経験者の女医が指導に当ることが効果的であることを講師や特別参加された男性婦人科医の方々から提言され、心改まる気がしたものでした。

五十五年度の大事業である日本女医学会の総会を県花「つつじ」の咲き乱れる榛名山麓、伊香保温泉で開催し全国の会員の皆様に喜んでいただいた感激も新たに反省会を開いて懇談した日、女医会として何か社会に役立つ仕事を続けよう話し合いました。そして再び思春期の子どもたちが、心身ともに健康なおとなへと成長するために大切な、母親の理解を深める勉強にお手伝いしようということになりました。

「マザーズセミナー」そんなタイトルでの研修を開くことにした第一回目は、昨年十二月末自治医大付属病院長の松本清一先生をお招きして「思春期と月経」について学びました。この日は真中、田所両会員からも日常の診療や中国視察の旅で経験した有意義な話もありました。第二回目はごく最近、三月七日に主婦会館ク

リニック所長の奈良林祥先生から、母親のために「男の子の性」についての話をうかがいました。何時のセミナーも申し込み者が多く、会場の定員をはるかにオーバーしてしまい、お断りするのが申し訳ないような感じです。そして思春期の子どもを抱えた母親がどんなにとまどっているのを目に見えるような

茨城だより

茨城支部 大貫 京子

上野駅から常磐線で四十軒、三十分余りで利根川を越えれば茨城県の南玄関口、取手に到着します。それから百五十軒、匆来の手前までが本県です。その間に土浦、水戸、日立などが県内では大きな市です。

東北本線は埼玉から本県の西部、古河市を過ぎて栃木へと続きます。

土浦市は県南の中心地として古くから開け、東方の霞が浦は水郷として、また戦時中は海軍予科練のあった所、そして北方には関東平野に聳える筑波山があり、昔から歌や詩に詠まれた山です。その西麓に筑波研究学園都市が発展の途上にあります。県内に医科大学の設置を渴望していた所、昭和四十九年筑波大学医学部が開校し、年を逐い内容も充実され、県内の医師会からの紹介患者の受入れや、医学講演会などへの専門医の派遣など積極的な協力を示され、

気がいたします。山あいの雪の下から、露のとうがそつと顔を出しはじめ利根川の水もそろそろぬるみはじめて来ました。からっ風の土州にも春の訪れの近いこの頃です。やわらかな線の糸のような落葉松の芽ぶく頃、上州の山へお出かけになりませんか。

益する所大と申せましよう。昭和六十年には国際科学技術博覧会が開かれることとて、県政の重点もここに注がれています。その際はぜひお出かけ下さいましよう。水戸市は徳川御三家水戸藩の城下町として栄えた所、義公、烈公等の史跡も多く、県都として人口二十一万、政治、経済、文化の中心的存在です。また「水戸の観梅まつり」は二月下旬から三月にかけて催されますが上野から百二十軒、特急「ひたち」で八十分で来られることから、東京方面の観客も多く早春を楽しむ人々が賑わいます。

水戸から三十軒、沿線の工場群や原研の東海村を過ぎれば日立です。日立は約七十年前、日立鉱山の産銅を活用しての日立製作所創業の地、人口二十万、地方工業都市として活気を呈しています。

茨城県は昔「常陸」と「下総」の国でした。平坦で広く、海に面している所、農業漁業県として東京都民の台所へ食糧を供給しております。大平洋に面しての海岸線百七十軒には、漁港や海水浴場が並んでいます。そして鹿島港が開港し、最新式の技術をとり入れての一大工業地帯が形成されようとしており、成田空港への燃料輸送港でもあります。

鹿島は大和民族が日本列島を征服するのにその先兵軍団が上陸した所と伝えられ、鹿島神宮は香取神宮と共に武の神宮として有名です。その血を受けついでか、県民性は非常に気が荒く、血気にはやる気性が特徴でした。しかし工業社会化が進み、県外との交流や、情報化社会の現在、古来の県民性は次第にうすらぎ失われつつあります。

このような茨城県の医師数は二千二百名、人口十万人につき八十八名で全国平均百十九名よりかなり低位にあります。日本女医学会の会員は七十二名ですが県内の女医は百五十名位かと推定されます。これらの先生方はそれぞれ地域医療につくされておられますが、支部としての現在の活動は残念ながら低調です。

昨年群馬総会のと支部会を開催した際、初代支部長大内たか先生、二代目延島秀子先生、三代目若上妙子先生(前参議院議員)が出席され会を賑やかにして下さいました。今後は若い方々の入会をすすめ、活気ある支部にと希っております。

# 神奈川だより

神奈川支部 稲生 襄

四月号に地方色豊かなご紹介をこの事に関東地方として当県が当たったものの私は当県へは昭和二十二年からの事として日なお浅いもの出生地千葉県をしのぐ親しみのある県ですの……まず去る三月八日(日)小田原市風祭の楽趣里「すすひろ」での支部会の事から述べさせていたたく事にしたい。二〇〇余名の会員への案内状に出席者二〇名では情ない思いでしたがご当地小田原の会員のほとんどご出席下さった事では誠に有意義に思った。講演会はぬきにして専ら名物のお料理に舌鼓をうちつつご出席の理事さん方(福永ひろ子先生、松岡宏子先生、川口正子先生)から本部のホットニュースを聞き(事務所移転の事や十一月には日本女医学会六十五周年式典と研修会がある由)次々に自己紹介をしていただいた。明治生れの方も数名おられたが髪も黒々としておられたり、未だに自動車を運転して往診しておられるときは驚き入る、健保請求書かきを書いては驚き入る、健保請求書かきを一手に引受けておられるM先生は「私はこの会がこよなく好きだから出来る限りどこ迄でも出席します」とのお言葉、昨夏も暑い中を横浜迄おいで下さったのは頭が下った。中年

組で「経費はかかるし廃業しようか」と思ったが先輩の先生方に励まされ気をとりなおして継続する事にします」との声もあった。昨夏国際女医学会の後二カ月も単身でロンドンに滞在し、英語の勉強その他を体験したという方も。また九十余才の母親と常に暮らしているで週一度の支部主催の英会話(昭和四十九年からつづいている)に横浜駅西口の天理ビル十階へ行くのが何よりの楽しみで世間とのつながりをもつ唯一の場所ですという方もおられた。

今回は月の初旬、そして税金申告の事もあり、また小田原はチト遠い等の事もあって出席者も思うに任せなかったが次回は女医学会らしい演者を依頼し、もっと多勢のご参集を得たいと念じています。本支部では昭和四十六年「支部だより」を創刊し、すでに六号迄出し、今夏には七号発行の予定です。時折毎月発行の県医師会報の紙面も借りて追悼記や国際女医学会報告等出させていただいております。戦後神奈川には医科系大学がゾクゾクと出来、驚くばかりです。

(一)昭和十九年二月横浜市立医専として誕生したものが二十七年二月横



昭和56年3月小田原市「すすひろ」にて

浜市立医科大学となり  
(二)昭和三十七年一月、相模原市に北里大学医学部誕生

(三)昭和四十六年、川崎市に聖マリアンナ医科大学

(四)昭和四十九年、伊勢原市に東海大学医学部

その他病院としては日本医科大学第二病院が昭和十二年から川崎市に存在する他、戦後には

昭和四十一年十一月、厚木市に七沢老人リハビリテーションセンターが社会福祉法人県総合リハビリテーション事業団により創立された。

昭和四十五年一月、横浜市南区に県立こども医療センター創立

最後の二施設には女医学会として見学致し度く交渉したが日曜祭日は駄目なので苦慮している。そのうち実現したく……。最後に観光神奈川と

して横浜市には唯一の名園三溪園がございます。鎌倉市には京都、奈良に次ぐ程に社寺が多く次の社寺をおすすめします。

◎円覚寺 鎌倉五山の第二位。坐禪

で有名、漱石の「門」のモデル。十年程前、朝比奈菅

長さんの名揮毫をいただいたが昨年故人となられた。

◎東慶寺(かけこみ寺、昌蒲の名所)

◎建長寺(鎌倉五山の第一位、高野槇は見事)

◎瑞泉寺(梅、水仙、精進料理)

◎明月院(あじさい寺)

◎鶴ヶ岡八幡宮

◎大佛殿

(註、鎌倉五山とは建長寺、円覚寺、浄智寺、寿福寺、浄妙寺の五つです。)

## 千葉だより

千葉県支部は、昭和三十三年、東京女子医大の至誠会(花岡常子先生)と東邦医大の鶴風会(犬飼美代先生)を中心として、和気藹藹の中に発足しました。非常によいと思う事は、

学校色のない事で、皆さん、仲よく、年に一度の総会兼例会と、親睦旅行を楽しんでいます。支部長・副支部

長の選出は、原則として、至誠会と鶴風会から交替にする事にしております。

なお、千葉県は結構広いので、そ

川崎市には有名なお大師様がありますが戦後出来たものとして多摩丘陵の一角、生田緑地内三万三千平方メートルに昭和四十二年オープンした、川崎市立日本民家園は今や日本一といわれ、都内観光バスが外人観光ルートの一つに組み入れているそうです。川崎市は京浜コンビナートの中枢に立地し、工業都市のイメージが強いので、文化の香り少い都市といわれているが、この様な所のあることをどうぞご認識いただきたい。神奈川県は海岸線が長く景勝地は沢山ございます。最後になりましたが福永先生のお膝下箱根は申すに及ばずの素晴らしい所、ここからの富士の眺めは一月、二月が最高です。

千葉支部 久田 タカ

の連絡及び活動の基盤を大体大きく五つのブロックに分けて、してゆきたいと思っております

一、千葉市、市原ブロック

二、市川、船橋ブロック

三、柏・野田ブロック

四、木更津・館山ブロック

五、銚子・成田ブロック

等に分け、連絡及び地域活動にあたってゆきたいと思っております。

私達は自分達の生活向上とさらに地域社会のためにボランティア活動

が出来たらと思っております。現在は一年に一回の例会ではありませんが、少しでも現代の医学におけるれをとらぬよう、各界の先生方をお招きして、講演をきいたり、また、お互いの近況報告を中心に、お

### 山梨だより



昭和55年6月山梨支部総会

山梨県支部会員は現在三十八名の小県ですが、全会員のチームワークの点では、まとまっております。昭和二十二年三月、軍政部フアラール軍医の要請により山梨県女医学会を結成いたしました。当時疎開の先生方もおり会員六十二名でしたが、昭和三十三年六月、日本女医学会本部から正副会長のご出席をいただき、山梨

しいお食事をたのしんでおります。会に出席してア一よかったと言う会にもってゆきたいと心がけております。近頃会員の年令も高齢化しておりますので、つとめて若い会員の入会を歓迎しております。

山梨支部 清水 友代

県女医学会の名称を日本女医学会山梨支部と改めて、本日に及んでおります。定期総会は年一回、六月に例会を開き、会員相互の親睦につとめております。三十二年九月以来、市内郡部の希望者で毎月一回日曜日に、当番幹事を決めて昼食懇談会を開いております。毎日診療と患者で神経を使っている医者の生活ですの月一回のこの集りはストレス解消にもなり情報交換の場所としてこの集いは楽しみのようです。この会が長く続いているのもその故でしょう。日本女医学会費一〇〇パーセント完納もその辺にあるのかもしれない。去る一九七五年(昭和五十年)日本で開催された国際女医学会の前年度の日本女医学会総会を山梨がお受けした時の色々な楽しかったこと、困ったことなどは、良い思い出となっております。折折り話し合ってはなつかしんでいます。会を開催することは会員一同の親睦結合の場ともなりますが、山

梨にご出席下さった先生方は、思い起していただけると思いますが、すべては日本女医学会を大事に思う熱意の現われであつたと思います。一九七六年の日本での国際女医学会は立派に開催され成功裡に終了したことを、いまさらうれしく思っている一人です。

昨年(一九八〇年)イギリスのパーミンガムの会議に出席いたしました夕食会の席で外国の幾人かのドクターから日本での国際会議の素晴らしさを賞めていただきうれしくございました。支部便りとしてはピントがはずれましたが悪しからずお許し下さいませ。

次に山梨自慢ですが、世界に誇る富士山、美しい富士五湖、南アルプスや八ヶ岳山麓、また奥秩父の山々、私達の郷土は他県にも誇れる山紫水明の自然に恵まれ、観光としては武旧史蹟、身延総本山、春の桃源郷、秋の葡萄郷、またその果物は有名ですが、ワインの県としても有名で、世界に誇るウイスキー、ワイン工場も数々あります。案外知られていないのが宝石研磨で、東洋のイターオーベルスタインといわれるくらいで、淑女のみなさんのおいでをお待ちしています。宝石会館や、ミレーの絵で有名な県立美術館もあります。全国の先生方には山梨をお訪ね下さればご案内申し上げます。

山梨の会員は一同元気に活躍しておりますことをお知らせして、諸先生方のご多幸を祈っております。

### 昭和54年度全国医科大学学位取得者数及び日本女医学会員学位取得者表(学術部)

昭和55年6月7日、68校に調査依頼し、58校より回答をいただきました。なお、会員外の83名に、入会勧誘状を発送し、現在までに4名の方が入会されました。

	学校数	取得者数	日本女医学会員
国公立	34	52名	0
私立	24	40名	9名
計	58	92名	9名

(敬称略)

支部名	氏名	出身校	卒年	論文名
荒川	広江ひろみ	東京女子医大	昭和46年	血圧——心拍出量ダイアグラムの応用 開心術後患者の循環動態
板橋	北原久枝	"	" 43年	小児における抗けいれん剤の血中濃度について
新宿	高田勝美	"	" 44年	胆道鏡施行時における胆道内空気注入による循環動態の変動に関する研究
"	山口晴子	"	" 47年	脈波による動脈硬化度判定の臨床的研究 ——大動脈および細動脈脈波伝達速度を中心として——
世田谷	林忠齡	"	" 48年	ラット脳ゴルジ装置の分離 ——形態的に良好に保たれたゴルジ装置を分離する企て——
千代田	阿部真知子	"	" 49年	ウグイ網膜内顆粒層より得られる単一細胞の生理学および形態学的研究
東女医学内	藤多恒子	"	" 48年	メニエール病の経過と内耳機能
都下	柴田敏江	"	" 44年	東京女子医大第二病院の産科診療園
佐賀	福岡真由美	久留米大	" 48年	原発性肺癌のX線学的検討



# 忙中閑

## 湯坂路と石仏群

神奈川支部 福永 ひろ子



六道地蔵本地仏

箱根越えをするのに、湯本を起点として、東海道(第一国道)旧東海道(箱根八里)と湯坂路の三つのルートがある(この他に、戦後、箱根バイパス、大観山ターンバイクの二つが加わった)。

今の人にはあまり知られていない湯坂路は鎌倉古道とも言われ、国道一号线の小田原を過ぎて箱根にさしかかると、左手の早川の溪流に架かる三枚橋越しに、行手を眺めると、南面に描かれたような山々が、箱根湯本温泉街の上に浮かんで見える。湯坂山、浅間山、鷹ノ巣山と言い、湯坂路はこの山々の尾根伝いに行く。全長七・六キロの直登ルートである。

源頼朝をはじめ、鎌倉の武将達は、関東の鎮護神として箱根権現を崇敬し、その参詣道としてにぎわった。また、京都から鎌倉へ下った阿仏尼(藤原為家後妻)もその「十六夜日記」に、

「東路の湯坂を越へて見渡せば、しほ木流るる早川の水」と記している。

早川溪谷の岩にぶつかる瀬の音を後に、灌木と熊笹のそよぐ山道を喘ぎながら登り、石垣のみ僅かに残る鷹ノ巣城跡をあとにしてなおのぼると湯坂路は東海道(第一国道)と合流して、箱根七湯中の最高所にある芦の湯温泉に着く。純硫黄泉で、江戸時代に刊行された全国湯治場番付を見ても、芦の湯は常に上位三役辺にあり、松坂屋、きくのやの二軒の宿屋はその頃から今日まで連続として続いている。周囲を深い山に囲まれ、俗塵を離れた別天地の感のする温泉場である。

湯場の人々は、湯の守り神として熊野権現を祀り、その境内に隣り合わせて薬師堂(東光庵)も建立した。江戸後期、文化、文政の頃、芦の湯へ湯治保養に来た文人墨客が東西から集まって、この東光庵で風雅のあそびに興じた。またヘルツ博士を始め多くの異国人も好んで芦の湯に滞在した。尚東光庵跡に、最近立派な持仏堂が移建された。

ここを過ぎて、早春の木々の芽吹く頃から、日もすがら鷲坂を登り切ると(海拔八七三メートルの東海道中最も高所)その先、左手に、三基の五輪塔姿が見えてくる。俗に曾我五郎・十郎とその母虎御前の墓(一般には十郎の愛人虎女の墓とも言われる)の三つである。一基の台座には、永仁三年十二月造と刻まれている。

て、いずれも国の重要文化財に指定されている。

さらに百メートル許り歩くと、左側の大きな岩に三体の菩薩が刻まれ、右手下に二十五菩薩と呼んでいる磨崖仏群がある。うち阿彌陀如来像が一体、天人像と考えられるものが二体、残りすべて地藏菩薩である。造像は曾我兄弟より三年早い永仁元年(一二九三)で、殊に興味のあるのは、結縁衆の名前が縦書きでずらりと刻まれている事である。

私が石仏の事を調べていると聞いて、土地の大地の棟梁が面白い話をしてくれました。彼の子供の頃、大正の初め、箱根を観光する外人客が多く泊ったという「はふや旅館」(今の箱根ホテル)の主人が、箱根宿廃止



火焚(応長古碑)

によって失業した雲助達に観光用英語を教え、藤椅子に外人を坐らせ椅子の脚に二本の竹を通して四人でかつぎ箱根一円を観光させていた。これを「ちや」と言い英語の「チェア」がなまったものであろう。その「ちや」に交替を兼ねて二人ずつの俄かガイドがついて、二十五菩薩の所に来ると、教えられた通り「ツェンハブ・リットルボンサン」と言う外人さんはいたく感激してチップをはずんで呉れたそう。先生、外国でも坊さんと言うんですかね?と聞くので「ツェンハブはトゥエンティファイブ、ボンサンは梵語の(Bodhisattva)の事ではないか」と答えた。前記の主人は、生きた英語を、口うつしに教えたにちがいない。今でも七十歳以上の土地の老人達の中には、かたことの英語を話す者がいる。ゴルフのことをゴルフ、サンキユウをセンキユと言うが、なるほどこの方が外人には通じるのであろう。何か今の英語教育について考えさせられるものがある。

氏は女」とみことな女文字で彫られた磨崖地藏で、眉の美しい柔和な顔の立像で、その石の傍にはこれまた可愛い子供地藏が二体刻んである。丈を測ってみたら、二十三センチあった。 彼女のまま八百歳を経たと伝える八百比丘尼の墓もここにある。 国道に出ればらく歩くと、左手の双子山北麓の岩肌に、高さおよそ三メートルに及ぶ磨崖仏坐像が望まれる。土地の人達は、六道地藏の名で親しんでいる。毎年八月二十四日の祭には、竹串の先を裂いて色とりどりの団子をさして供え、子育てと読み書きのお地藏さんとして、地元の人々を敬愛している。関東大震災の後までこの地にあった茶店の娘が今でも健在で、八十歳になるおばあさんだが、石仏にまつわる不思議な話や、戦の話等を私に語ってくれたが、長くなるので後の機会にゆずる事に。 往診の帰路車を止めて、六道地藏の石段に腰をおろして、眼下の硫黄水流のため魚類も棲まぬという精進ヶ池の、蒼黒くよどんだ池面の小波をながめていると、かつてこの道を往來した旅人の重い足どり、鎌倉の武將達が馳け抜けて行った馬のひびき、巨岩に仏を一心に刻む石工の汗の音等が池を囲む山々にこだまして来るような気がして、診療や雑事に追われる私を一時忘れさせてくれるのである。 (医家芸術55年6月号より転載)

吉岡弥生賞審査会において規定が一部改正されましたので、お知らせいたします。

### 吉岡弥生賞規定

一、吉岡弥生賞は龍知恵子女史(当時日本女医学会会長)が昭和四十二年五月十三日の本会の総会において会の事業として提案したものである。この提案はその後日本女医学会の事業の一部としてとりあげることになったところ、故吉岡弥生先生の愛弟子であり、特に先生の徳を慕う荒川あや女史がこの提案に感激され、翌昭和四十三年五月十八日の総会において、その基金として金一、〇〇〇万円の寄贈を申し出られた。本会はこれを快く満場一致で了承した。

#### (審査委員会、推薦委員)

二、荒川あや女史の申し出によりこの金額を基金とし、その利子を年々の運営資金として当てることになった。日本女医学会は、吉岡弥生賞を事業の一部として永続し、故吉岡弥生先生の偉業を永遠に伝え、その遺志の発揚に資するものである。

第三條 一、審査委員会は十名の委員で構成され、その任期は三年(日本女医学会役員任期と同じ)とする。ただしそのうち龍、荒川両女史は終身委員とし、その他の審査委員は理事会において選出する。

#### (委員の任務)

二、日本女医学会理事及び支部長を推薦委員に委託する。

#### (資格)

第四條 審査委員会は推薦委員により推薦された候補者について審査し、受賞者を選定するものとする。

第一條 吉岡弥生賞は日本女医学会の会員で会の目的達成に貢献しつつある人、または団体を対象として贈与する。

- 一、医学に貢献した会員
- 二、社会に貢献した会員

#### (賞の額)

第二條 一、年額一件あたり三十万円とする。

#### (賞の手続き)

第五條 一、自筆履歴書(写真貼付) 二、業績 三、推薦の理由を記載して押印する 四、本人の意志表示あるもの

### 理事会議事録

日時 昭和五十五年十二月二十七日  
場所 至誠会館 四階会議室  
出席(敬称略)  
三神、福永、柳瀬、山崎、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、斉藤、鈴木、野口、藤井、藤田、今野、添田

#### 欠席(敬称略)

稲葉、尾中、大原、川島、川那部、佐野、清水、野呂、蓮井、平瀬、マッキンストリ、森川、山本、山口

#### 庶務報告

久保田常任理事  
11月22日 常任理事会、理事会を行う  
12月15日 事務職員四宮弥生特別休暇を提出十二月二十一日より産休に入る  
12月25日 佐野アヤ子理事に病氣見舞を理事一同でする  
第一回日本女医学会学術研究助成申し込みを締め、三十二名の申し込みあり  
その他  
故本多貞子先生ご遺族より香典の礼状あり  
・エディクラフトより「株式会社エディコーポレーション」と組織変更の挨拶あり

#### 報告事項

(1)昭和五十五年全国婦人教育交流集会「婦人と学習を考える集

い」の基調講演公開について  
(2)国連婦人の十年後半期行動プログラムを送付あり  
(3)日本中友好協会全国本部より「日中友好新年のつどい」の通知あり、一月二十二日、池之端文化センター黄金の間、会費三千円

(4)東京都日中友好協会婦人委員会より「一九八一年日本婦人新春の集い」の案内あり、一月二十日 東京文化会館四階 会費千円

#### 会計報告

守安常任理事  
十一月分別紙どおり 承認

#### 議題

一、事務所移転について  
・事務所購入について及び資金不足分五〇〇万円を国際交流基金より流用するについてのアンケートは賛成二十七、反対一、回答なし四で理事会は賛成となったが、さらに詳細については三和建物の方より説明あるいは、こちらより質問いたしたく臨時理事会となる  
・三和建物の方より一月中旬着工五月中旬上棟、八月中旬完成の予定で建物、環境について詳細な説明あり、トイレ、火災、雨もり等に対する保証、不動産取得税の値上りその他、入居者等につき質問あり  
改めて出席者に挙手にて賛否を問ひ反対一賛成十八を確認、昭和五十六年一月二十四日理事会

の席上で弁護士立合の上契約する  
・契約時九〇〇万、上棟時九〇〇万、完成時残金の支払いをする。

二、その他  
(1)へき地診療助成について  
・愛知支部推薦の村松忠子先生について、長い間無医地区でご苦労なされたので表彰状に副賞として十万円を贈る

(2)昭和五十六年総会について  
佐藤常任理事より愛知県支部案の提出あり  
昭和五十六年五月三十一日 ナゴヤキャッスルホテル 評議員会 午前十時〜十一時半(神宮会館)

総会 午後一時〜三時  
討論会 午後三〜五時  
懇親会 午後五時〜七時  
総会案内を一月末発行の日本女医学会誌と同封する

(3)理事会、新年会について  
京王プラザ新館にて会費は一万円とする

(4)優功賞について  
国際女医学会名誉会員になられた小野春生先生に昭和五十六年総会にて贈る  
(5)学術研究助成について  
各地大学より三十二名の応募申し込みあり、学術部を中心に論文内容を重視して選考したい

(6)吉岡弥生賞について  
医学に貢献した会員

橋本葉子先生(東女医学内) 社会に貢献した会員

日野俊子先生(大分)

二名の推薦候補あり、審査会にはかることになった

(7)ルーベンゲンについて

昭和五十六年八月十八日にて実用新案登録の期限が切れるが、エディコーポレーションの希望もあるので、ロイヤルティーなどにつき事業部で契約する

(8)国際連絡書記より

・クリスマスカードを国際女医学会加盟国に五十通ほど出したが、受け取ったのは十通であった

・国際女医学会費を一八〇〇名分送金する

(9)日本女医学会発足六十五周年(戦中戦後中断を除く)記念と事務所移転を兼ねて祝賀会を催し、永年会員を表彰してはどうか

以上 久保田くら

松岡 宏子

日時 昭和五十六年一月二十四日  
場所 京王プラザホテル

新館四階 桂の間  
出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、尾中、大原、川口、川島、齊藤、清水、鈴木、蓮井、平瀬、藤田、森川、山本、今野、添田、山口

欠席(敬称略)

川那部、佐野、野口、野呂、藤井、マッキンストリ

庶務報告 久保田常任理事

12月27日 常任理事会、理事会を  
行う

1月5日 移転準備委員に文書で

事務所購入決定の報告をする

1月9日 福井、石川、富山、岐

阜、長野、新潟、福島、山形の

各支部に雪見舞をする。山形

石川、長野、福島支部より札状

あり

1月12日 国際女医学会費一、八〇

〇名分送金する

1月22日 日中友好新年のついで

に竹内常任理事、野口理事出席

報告事項

(1)第三十五回国連總會報告会の案

内あり

日時 一月二十四日

会場 婦選会館

(2)全国保険医団体連合会第十九回

定期総会の案内あり

日時 一月二十五日

会場 三井生命

(3)昭和五十六年度国の婦人関係予

算案を聞く会の案内あり

日時 二月七日

会場 婦選会館

(4)建国記念の日、奉祝記念式典の

案内あり

日時 二月十一日

場所 明治神宮会館

(5)国連婦人の十年中間年日本大会

実行委員会より委員会報告あり

中間年日本大会報告書を発行す

るので参加団体の簡単な紹介を

のせるため原稿の依頼あり、一

月二十日発送した

(6)全国婦人新聞社より全国婦人新

聞についてのアンケート依頼あ

り

会計報告 佐藤常任理事

十二月分別紙どおり 承認

議題

一、事務所購入契約の件

洪谷 宮野ビル事務所購入契約

(京王プラザホテル柱の間に)

理事会の席上で三和建物御園生氏

と弁護士米林氏立会のもとで契約

をする

契約に先立ち弁護士から案内を女

医学会が使用しやすいように建物の

基本的構造を毀損しない範囲内で変

更することもあり得るとの項目を

加えた方がよいとの意見あり、三

和建物の許可を得、一項目を加え

日本女医学会会長三神美和と三和建

物株式会社代表取締役宮下勝三郎

との間で契約を交し、第一回支払

金として九〇〇万円を支払う

二、昭和五十六年度事業計画及び予

算案について

学術部 講演研修費 八十万

研究助成費 三十万

事業部 へき地診療への助成六

十万

公衆衛生 十万

支部助成 五十万

渉外部 渉外部 四十万

広報部 機関紙 二百七十万

国際女医学会費 百二十万

庶務部 管理費

俸給諸給諸手当 九十万

法定福利費 六十五万

厚生福利費 十万

会議費 百五十万

旅費交通費 百四十万

通信費 三百万

什器備品費 二十万

消耗品費 四十万

印刷費 百三十万

事務所賃借料 二十万

管理費 六十六万五千

弔慰費 三十万

顧問料 三十万

租税公課 一万

年金経費 二十五万

雑費 四十万

光熱費 二十八万

積立金

名簿引当金 五十万

退職積立金 六十万

三、その他

(1)創立六十五周年記念式典につい

て

・十一月二十九日 会場はこれか

ら交渉する

・祝賀会(事務所移転を兼ねて)

・永年会員表彰(昭和三十年入会

者)

・研修会(学術部)

・バザー(事業部) 国際障害者年

にあたり身障者のために

・懇親会  
経費は特別会計から捻出、委員

会を設け細かい事を決めて行う

(2)定款施行規則について

前回印刷した定款施行規則及び

改正案の残部が少ないので五十

六年度の総会にかけるため、訂

正箇所が一行か二行であるが改

めて三、七〇〇部印刷する

決定

(3)吉岡弥生賞審査会について

二月二十八日 一時半より

(4)浴風会より老人福祉と医療向上

のため支援の依頼について

一万円の寄付をする 決定

(5)カンボジア国際会議日本組織委

員会へ参加されたいとの依頼あ

り 不参加

(6)中華全国婦女連合会より、日中

友好協会婦人代表団を招待した

いとのこと、女医学会より二名参

加してほしいと依頼あり

三月六日・十五日の予定

費用 三十五万

候補者 小俣、野沢両常任理事

(7)国際連絡書記より

第十八回国際女医学会議の学術プ

ログラムのテーマ「心ある医療」

の論文募集切は四月十五日で

ある

(8)ルーベンゲンについて

エディコーポレーションで商標

登録の更新手続中であり、ロイ

ヤルティーなども従来通り入る

よう書類作成中である

以上 久保田くら

松岡 宏子

常任理事会議事録

日時 昭和五十六年二月二十八日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、八木、欠席(敬称略) 守安

席務報告

松岡常任理事
1月24日 常任理事会、理事会、新年会を行う
1月27日 武見太郎氏に病氣見舞をする

報告事項

(1)国際婦人年日本大会の決議を實現するための連絡会よりのお知らせあり
三月五日 婦選会館
(2)新宿区総務部婦人青少年問題担当主幹室より「婦人のつどい」開催の連絡あり
三月七日 新宿文化センター
(3)日中友好婦人連絡会より全体会議の連絡あり
三月十八日

会計報告

日本YMCA 佐藤常任理事
一月分別紙どおり 承認
会費収入昭和五十五年度予算額は一千八百万円であるが、一月までの会費収入は一千八百二十万四千円であり予算額を上回った
以上 久保田くら

会員動静

支部長変更新支部長(敬称略)
福井支部長 小林百合子
入会会員(敬称略)
青森支部 河村節子 野村由美子
群馬支部 三橋多佳子
埼玉支部 中村保子 矢崎妙子
新宿支部 三浦明子
墨田支部 大島康枝
中野支部 加藤由美子
都下支部 原中瑠璃子 垣生園子
池野美恵子
神奈川支部 平松和子 遠藤恭子
新潟支部 渡辺繁子 三浦まゆみ
大阪十支部 富野郁子
京都支部 宮川美栄子 大石まり子
岡山支部 山磨康子
山口支部 本田千穂
徳島支部 武市早苗
福岡支部 柏村賀子
長崎支部 福田友子
宮崎支部 鶴 紀子
鹿児島支部 渡辺雅子

退会会員(敬称略)

青森支部 前田由子
山形支部 須藤きみ子
埼玉支部 東 和子 三浦アヤ
栃木支部 賀川治美
茨城支部 佐藤杏子
千葉支部 鈴木まち子
板橋支部 河野宏子
大田支部 天沼恭子
豊島支部 増田登志子
中野支部 山崎修子
港支部 山本律子
目黒支部 磯村 光
東女医学内支部 瀬木和子
都下支部 高木麻栄
静岡支部 堀 菊子 加畑カズミ
愛知支部 猪飼つね
長野支部 酒井 澄 宮崎麗子
福井支部 角 俣子
三重支部 杉浦京子
奈良支部 吉原富美子
大阪一支部 春田貴代子
大阪五支部 増田とし
大阪十支部 宮内裕代
兵庫支部 菊川あや 西岸すすゑ
島根支部 加藤典子
愛媛支部 伊藤篤子 宮内恒子
福岡支部 大國喜久恵
長崎支部 中村昌子
熊本支部 村山秀香 三井 幸
会員物故者(敬称略)
訃報に接し哀悼にたえず謹しんでご冥福をお祈りいたします。
愛知支部 千原うゑよ

お知らせ
ルーペンダンについて

女医会考案ルーペンダンのパテン
ト効力が昭和五十六年一月二十日
限(昭和四十五年一月実用新案特許)
となりました。今後引き続き十年
前のPatentについての約定書と同じ
く、ルーペンダン取り扱い約定書が
業者(株式会社エディコーボレーシ
ョン)との間で、とりかわされました。
また掛率についても従来通り、
女医会へ納入される事に約束されま
した。
ふり返ってみますと、このルーペン
の医療泰仕の基金にという発想から
大変ユニークなルーペンダンが発案
され、女医会の事業として活躍し、
財源の一部として潤っておりまし
た。今後は女医会事業の発展に貢献出来
ますように祈ってやみません。
ふと、何かの会合で、また町の中
でルーペンタンをかけておられるの
をみます時、大変嬉しいものでござ
います。デザインも年々洗練されて
まいりました。会員の皆様方、今一度
見直して戴き、お召物のアクセサリ
ーに、また贈物にご利用いただけ
るのではないかと存じます。例年の如
く、来る五月三十一日名古屋での日
本女医会総会の会場には、出店され
る予定で、ございます。ご出席の折
には、お立ち寄りいただき再度、お
首に下げてみて下さいませようにお
願い申し上げます。
事業部 川島富久子

編集後記

春も漸く去り、爽やかな新緑を迎えようとしています。
五月の定時総会も間近となり、愛知支部の皆様には、ご多忙の毎日と存じます。早くも出席申し込みは二百人を越すとのこと、全国よりお集りの先生方の、「アラ!お久しぶり」とのなごやかな風景は、総会ならではのことと存じます。会誌もまた全国会員の皆様にご利用いただける唯一の社交の場でもあります。今回も沢山のご協力をいただき、女医会の内外における活動または、支部の活気ある運営や郷土のご紹介、そして住時を偲ぶ箱根の姿等、読者の皆様にはいかがでしたか。
本部事務所の移転、六十五周年記念行事等、面白い話題の多い昨今です。内容豊かな会誌としてご期待に沿うよう努力しておりますので、どうぞ奮って各位のご投稿をお待ちしています。次号の支部だよりは東京地区を予定しています。
なお、ご多忙中玉稿を賜りました諸先生に改めて厚くお礼申し上げます。
広報(八木)

昭和五十六年四月二十日 印刷
昭和五十六年四月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 美
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都新宿区市谷河田町19
社団法人 日 本 女 医 会
TEL (341) 〇九六八
東京都文京区本駒込 一七七一十五
印刷所 株式会社 北 斗 社